

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	利根運河観光振興事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	流山本町・利根運河ツーリズム推進課			
施策	5-5	特色ある観光の育成と創設		主管課長	井戸 一郎			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市民、来訪者	意図	利根運河の歴史や自然環境について、利根運河交流館を通して情報発信し、本市の観光振興を図る。
事業内容	利根運河交流館の管理運營業務をNPOに委託するとともに、利根運河の資料収集、保管及び展示を実施。展示物の説明等により交流館への来館者増員に努める。また、利根運河周辺の観光資源を活用した市民交流事業の創出、地域の観光振興に努める。			
事業開始から現在までの状況変化	平成21年10月の事業開始後、委託先のNPOの働きにより朝市の開催など、利根運河交流館の来訪者も次第に増加傾向にあり、市民交流拠点としての働きを強めている。当初は「ふるさと雇用再生特別基金」を活用した事業であったが、現在は市の事業としてNPO法人に委託している。平成27年度から、運河駅の三角コーナーを活用し、ギャラリーを展開している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	利根運河交流館来館者数	2,442	2,566	2,511	人	↑↑↑
②	運河駅ギャラリー来訪者数	29,230	30,700	31,040	人	↑↑↑	実績
③	利根運河地域来訪者数	57,582	63,176	77,091	人	↑↑↑	実績
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	地元地域団体（自治会、大学）と連携した事業を展開しており、地元住民との交流の場として大きな役割を担っている。		目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		平成27年7月からオープンした運河駅ギャラリーは、好立地であること並びに新規イベントを展開し、来場者が順調に増えている。一方で、利根運河交流館の来場者は、減少傾向にある。		
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		6,687,900	7,013,660	6,995,260			
事業費(b)(円)		5,143,000	5,499,360	5,499,360			
うち一般財源		5,143,000	5,499,360	5,499,360			
職員給与費(c)(円)		1,544,900	1,514,300	1,495,900			
人役・職員(人)		0.20	0.20	0.20			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)		0.10	0.10	0.10			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	運河駅ギャラリーを活用した魅力的なイベントの展開	③取組における課題(Check)	既存事業のマンネリ化
②H30に実施した取組(Do)	【運河駅ギャラリーでの新規事業】 ・地元の産品や物販を行い、収益確保に努めた。 ・駅コンサート開催	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	受託者と交流人口を増やすために新規事業や魅力的なイベントを協議